

佐渡の世界農業遺産

金の歴史と生物多様性

金銀山の発展により急増した人口のため、海沿いや山間深くまで新田開発が促されるとともに、地形を活かした水利技術や、「佐渡金山坑内の排水技術」が農業用水のくみ上げにも活かされるなど、佐渡独特の棚田風景を作り上げました。

今では、その伝統的な棚田を守るため、棚田オーナー制度や棚田散策ツアーなどを実施し、都市住民との交流や環境学習の場所として棚田が活かされています。

小倉千枚田のオーナー制度



能

多様な農村文化の継承

江戸時代の金銀山の隆盛により、農産物などの需要が高まり、小規模ながらきわめて豊かな農家が急増しました。豊かになった農家の人々は様々な文化や芸能を取り入れ独自の農村文化ができました。現在でも各農村集落に文化や芸能が継承され育まれています。



一足型鬼太鼓



巨まき型鬼太鼓



前浜型鬼太鼓



花笠型鬼太鼓



鶴と型鬼太鼓

大きく分けて
五つの流派が
存在します

鬼太鼓

世界農業遺産 トキと共生する佐渡の里山



佐渡金銀山の発展がきっかけとなり人の手によって形成された佐渡の美しい里山にトキは日本で最後まで生き続けましたが、乱獲や、佐渡においても収量や効率性を重視した農業が取り入れられ、餌場となる田んぼが少なくなるなど、その生息環境が失われていきました。

再び、トキを野生に帰し、人と共生できる里山環境を取り戻すため、田んぼの生態系を豊かにするための特別な農法を取り入れた「朱鷺と暮らす郷認証制度」を平成20年から農家、行政、JAなどの関係者が一体となり進められたことで、今では、約300羽のトキが佐渡の里山に暮らしています。

佐渡の世界農業遺産

生きものを育む農法



“トキと共生する佐渡の里山”で育まれたお米

「朱鷺と暮らす郷」

Toki to Kurasu sato
佐渡市が認証するマークです



え
江（深み）
の設置

美味しく品質の良いお米を生産するために水を抜き田んぼを乾かす必要があります（中干し）。その際に田んぼで生きている生きものたちが避難できる場所となる水辺を作ります。



魚道の
設置

田んぼと水路を生きものが自由に行き来できる通り道を作ります。



ふゆみず
たんぼ
(冬期湛水)

雪が積もる冬の間も生きものが生息できるよう田んぼに水を張り、湿地状態を保ちます。



ビオトープ
の設置

作付けした田んぼに隣接した作付けしていない田んぼに1年をととして水を張り、生きものの豊かな生息環境を作ります。

・生きもの調査

佐渡市では平成22年に「生きもの調査の日」を宣言し、6月第2日曜と8月第1日曜に生きもの調査を実施しています。



・畦畔除草剤の不使用

田んぼの畦際は、トキの夏場における貴重な餌場となります。このことから、畦付近に生息する生きものを育むため、除草剤を使わずに丁寧に草刈を行います。

